

## 2. 流域及び河川の自然環境

### 2.1 流域の環境

荒川流域の植生は、山地部では亜寒帯常緑針葉樹林から冷温帯落葉広葉樹林が、丘陵・台地・低地では暖温帯常緑広葉樹林が順次分布している。

山地部の海拔 1,600m 以上の森林は、昔から奥秩父の原生林として知られ、中でも奥白岩山頂（1,921m 付近）のシラビソ・オオシラビソ林は日本の分布の南限としても知られている。その他、武甲山のチチブイワザクラ等の石灰岩特殊群落も有名である。



写真 2-1 チチブイワザクラ  
【出典：埼玉県】

一方、平野部の植生は、農地や宅地等人工的な土地利用が行われ、シラカシーケヤキ等からなる屋敷林や雑木林、竹林等が多くなる。

秋ヶ瀬取水堰から下流は、過密化した市街地で自然植生は少ないものの周辺には上野公園をはじめとする名所・旧跡の森や緑地等がある。

### 2.2 河川の自然環境

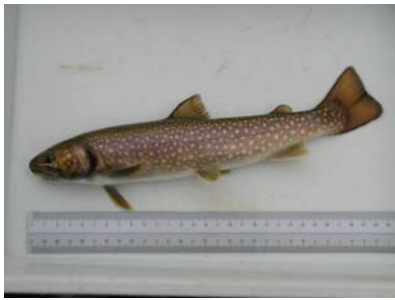
荒川は、大きくは源流から寄居町に至る溪流・溪谷が連続する上流部、寄居町から熊谷市に至る砂礫河原と瀬・淵が連続する扇状地と、熊谷市からさいたま市の秋ヶ瀬取水堰に至る旧流路や周辺の湿地環境が特徴的な平野部を流れる中流部、そして、秋ヶ瀬取水堰から河口に至る市街化した地域を流下し水際にはヨシ原・干潟が分布している汽水環境の下流部に分けることができ、それぞれの河川環境に特有の生物が生息・生育している。

#### (1) 源流部から寄居町に至る区間（上流部）

源流部から寄居町に至る山地を流れる区間は、河川の勾配が急で流れが速く、川幅が狭く河原は少ない。

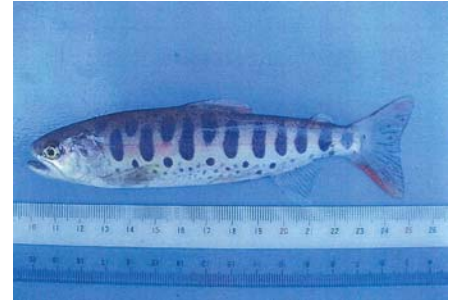
急峻な山々にはシラビソ等の天然林やスギ、ヒノキ等の人工林等が分布し、河川沿いにはケヤキ等の河畔林や溪畔林が発達している。

溪流には、清流に生息するイワナ、ヤマメ、カジカ等が生息する。また、ダム湖周辺では、カイツブリ、オシドリ、マガモ等の水鳥が多くみられ、ギンブナ、ウグイ等の魚類が生息している。



イワナ

【分 布】北海道から南は中国地方の一部。  
 【生息場所】日本産の淡水魚のなかでは最も標高の高いところに生息。夏季の水温が 13～15℃を上限とする河川の最上流域の淵を中心に生息。  
 【産卵時期】9～11月。  
 【出典：河川水辺の国勢調査】



ヤマメ

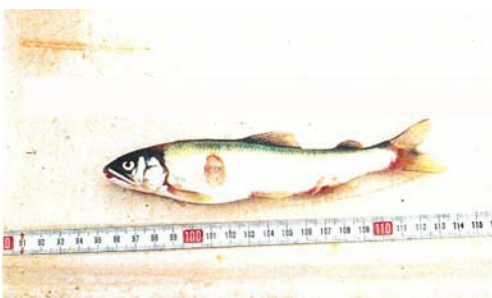
【分 布】北海道、本州の神奈川県以北の太平洋側及び日本海側全体、九州の一部。  
 【生息場所】川幅のある比較的開けた最上流から中流上部までの淵、落ち込み、岩陰の凹み、大きな石の周りなどに生息。  
 【産卵時期】9～11月。  
 【出典：河川水辺の国勢調査】

写真 2-2 源流部から寄居に至る区間における主な確認種

(2) 寄居町から熊谷市に至る区間（中流部）

中流部の寄居町から熊谷市に至る扇状地を流れる区間は、水域には交互に瀬と淵が分布し、砂礫河原が多く見られる。

礫底の瀬ではアユ、ウグイ、オイカワ等が生息しており、淵にはコイ等の大型の魚類やギバチ等が生息している。また、アユやウグイの産卵場もみられる。砂礫河原ではコアジサシ、イカルチドリ等の鳥類が営巣しており、カワラバッタ等の昆虫類も見られるほか、カワラヨモギ等の河原植物が生育している。



アユ

【分 布】北海道西部以南の日本各地に分布。  
 【生息場所】中流から上流域の大石や岩盤のある瀬に縄張りを形成して定着。  
 【産卵時期】彼岸頃～11月下旬  
 【出典：河川水辺の国勢調査】



コアジサシ

【分 布】本州以南に夏鳥として渡来し、繁殖。  
 【生息場所】大きな川の中州や河岸、湖岸、海岸の砂礫地や埋立地に生息し、コロニーをつくる。  
 【産卵時期】4～7月  
 【出典：水と緑のネットワーク荒川】

写真 2-3 寄居から熊谷市に至る区間における主な確認種

(3) 熊谷市からさいたま市の秋ヶ瀬取水堰に至る区間（中流部）

熊谷市からさいたま市の秋ヶ瀬取水堰に至る平野を流れる区間は、荒川の治水の要として遊水機能を持つ日本有数の広大な高水敷を有し、かつての荒川の蛇行形状と自然環境をとどめる旧流路や周辺の湿地、ハンノキ等の河畔林が見られ、多種多様な動植物の生息・生育環境を形成している。

旧流路の水域には、ヒシ等の水生植物、トウキョウダルマガエル等の両生類や、メダカ等の魚類が見られ、湿地のヨシ群落と周辺のオギ群落は、オオヨシキリ等の鳥類やカヤネズミ等の哺乳類の生息場として利用されている。ハンノキ等の河畔林には、ミドリシジミ等の昆虫類が生息している。一方、近年高水敷の乾燥化が進行し旧流路の水域、湿地が減少しつつある。なお、旧流路の一部では、荒川ビオトープ、三ツ又沼ビオトープ等として保全・整備され、現在、荒川太郎右衛門地区の自然再生に取り組んでいる。

低水路内の水域は太郎右衛門橋下流付近まで秋ヶ瀬取水堰の湛水域となっており、ギンブナ、オイカワ、モツゴ等の魚類が数多くみられる。さらに、荒川第一調節池内の<sup>たしまがほら</sup>田島ヶ原には、国指定特別天然記念物のサクラソウ自生地が広がり、都市域での名所になっている。



ミドリシジミ

【分 布】北海道から九州まで分布。四国と九州では山地性の傾向が強い。  
【生息場所】主に平地のハンノキ類の生育する湿地に生息するが、水田や畦や河川敷でもしばしば発生する。  
【産卵時期】7～4月  
【出典：河川水辺の国勢調査】



サクラソウ

【分 布】北海道、本州、九州  
【生育場所】山地や河畔の野原。  
【花 期】4～5月

【出典：河川水辺の国勢調査】

写真 2-4 熊谷市付近から秋ヶ瀬取水堰に至る区間における主な確認種

#### (4) 秋ヶ瀬取水堰から河口に至る区間（下流部）

秋ヶ瀬取水堰から河口に至る市街化した地域を流れる区間は汽水域となっており、都市部の貴重なオープンスペースとしてグラウンドや公園が高密度に高水敷が利用されている中、水際にはヨシ原・干潟等の生物の生息環境が形成されている。

ヨシ群落には、オオヨシキリ、カヤネズミ等の生息場となっている他、重要種のヒヌマイトトンボ等も確認されている。河口部に分布する干潟では、トビハゼ、ヤマトシジミ、セイタカシギ等の生息場となっている。水域にはスズキやボラ、マハゼやエドハゼ等の多様な魚類が生息している。



トビハゼ

【分 布】東京以西の太平洋岸各地、瀬戸内海沿岸、沖縄島以北の琉球列島に分布する。  
【生育場所】泥質干潟の発達した河口付近の泥の中に、垂直な巣穴を掘って生息する。

【出典：川の生物図典】



ヒヌマイトトンボ

【分 布】本州中部の太平洋側の大河の河口部のところどころを生息地とする。  
【生育場所】汽水域でヨシ原の発達した河川の湿地に生息する。

写真 2-5 秋ヶ瀬取水堰から河口に至る区間における主な確認種

#### (5) 支川入間川等

支川入間川等は、標高 1,000m 足らずの丘陵性の奥武蔵山地を水源とし、ここからほぼ同規模の<sup>いるまがわ</sup>入間川、<sup>おっぺがわ</sup>越辺川、<sup>こあぜかわ</sup>小畔川、<sup>ときがわ</sup>都幾川、<sup>こまがわ</sup>高麗川の 5 つの支川が掌状に流下して、川越市付近で合流し、さらに流下して荒川本川と合流する。入間川の出丸冠水橋上流付近までは秋ヶ瀬取水堰の湛水域となっており、それより上流の入間川、越辺川、都幾川、高麗川では、水域には瀬と淵が分布し、砂礫の河原が分布している区間が多くなっている。

支川入間川等には、ヨシ・オギや河畔林が連続して分布し、オオヨシキリ等の鳥類、カヤネズミ等の哺乳類が生息する。また、水域にはギンブナ、オイカワ等が生息し、上流の砂礫河原はイカルチドリ等の営巣場となっている。



オオヨシキリ

【分 布】九州以北に繁殖。東北地方から北海道にかけてヨシの小さい所には少ないかまたはいない。

【生育場所】川べりや湖沼、湿地帯のヨシ原、並びにヨシ原周辺の丈の高い草むら、低木等に生息する。ヨシ原のあるところにはほとんど生息する。

【出典：水と緑のネットワーク荒川】



イカルチドリ

【分 布】本州、四国、九州に繁殖。冬はほぼ日本全土。

【生育場所】河原や埋立地、荒地の砂礫地に生息。特に河川中流域の氾濫原で礫の多い所を好む。

【出典：水と緑のネットワーク荒川】

写真 2-6 支川入間川における主な確認種

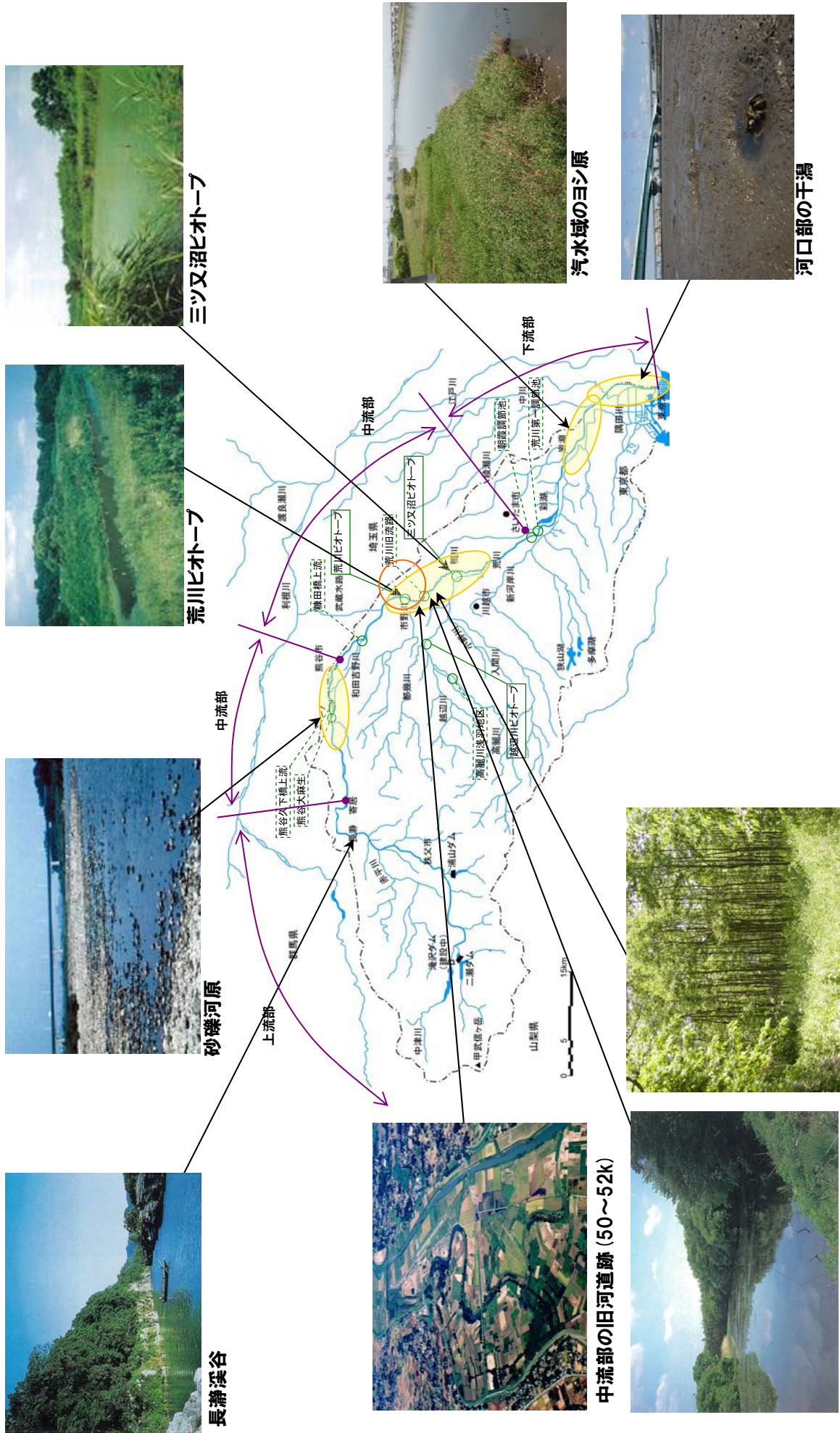


図 2-1 荒川水系の代表的な自然環境

表 2-1 荒川における特定種

特定種	荒川本川							入間川	越辺川	小畔川	都幾川	高麗川
	下流域 (秋ヶ瀬取水堰下流)	中下流域 (秋ヶ瀬取水堰～久下橋)	中上流域 (久下橋～玉波ダム)	上流域	荒川本川	入間川	越辺川					
植物	絶滅危惧ⅠA類	トダスゲ (移種)										
	絶滅危惧ⅠB類	ホソハイヌタ子、エキサイゼリ、ハナムグラ										
	絶滅危惧Ⅱ類	ウラギク、ミズアオイ	デンジソウ、コギシギシ、ノカラマツ、タコノアシ、ノウルシ、サウソウ、チヨウジソウ、フジバカマ、ミスズカモジ	コイヌガラシ、ソコウジユ、カワヂシャ	コイヌガラシ、カワソコウジユ、カワヂシャ	コイヌガラシ、カワソコウジユ、カワヂシャ、アギナシ	タコノアシ	タコノアシ	オホアブノメ、フジバカマ	タコノアシ	タコノアシ	タコノアシ、フジバカマ
魚類	準絶滅危惧											
	絶滅危惧ⅠA類											
	絶滅危惧ⅠB類	エドハゼ										
鳥類	絶滅危惧Ⅱ類	メダカ	メダカ									
	準絶滅危惧											
	絶滅危惧ⅠB類	セイタカシギ										
哺乳類	絶滅危惧Ⅱ類	オオタカ、ハヤブサ、コアラジサシ、シラコバト	オオタカ、ハヤブサ、コアラジサシ	コアラジサシ								
	準絶滅危惧		チュウサギ									
	絶滅危惧Ⅰ類											
爬虫類	絶滅危惧ⅠA類											
	絶滅危惧ⅠB類											
	絶滅危惧Ⅱ類											
昆虫類	準絶滅危惧											
	絶滅危惧Ⅰ類											
	絶滅危惧Ⅱ類											
地域個体群	準絶滅危惧	東京湾奥部のトビハゼ	ジュズカケハゼ	ジュズカケハゼ								
	天然記念物	シラコバト										
	特別天然記念物		田島ヶ原サクラソウ自生地	カモシカ								
地域住民・NPO等が保護	地域住民・NPO等が保護	コアジサシ、ヒソマイトトンボ	コアジサシ、ヒソマイトトンボ	コアジサシ、ヒソマイトトンボ	コアジサシ							

## 2.3 特徴的な河川環境や文化財等

### (1) 特徴的な河川景観

荒川上流部は秩父山地の自然が美しく、中でも名勝・天然記念物に指定されている長瀨溪谷は、岩畳上の地形を形成しており、多くの観光客が訪れる有名な景勝地になっている。荒川中流部は寄居付近から扇状地が広がり、瀬と淵、砂礫河原が特徴的な河川景観となっている。

寄居町から秋ヶ瀬取水堰までの中流部では、自然堤防帯となり、狭い低水路と広い高水敷が特徴的な景観となり、高水敷には旧流路や遊水施設の横堤がある。羽根倉橋（河口から 37.2k）から笹目橋（河口から 28.8k）の左岸高水敷には彩湖を中心とした荒川第一調節池が完成している。

下流部は、高水敷はグラウンド等に利用されているが、水際には干潟やヨシ原をはじめとした河川景観が形成され、都市内において良好な河川景観を呈している。

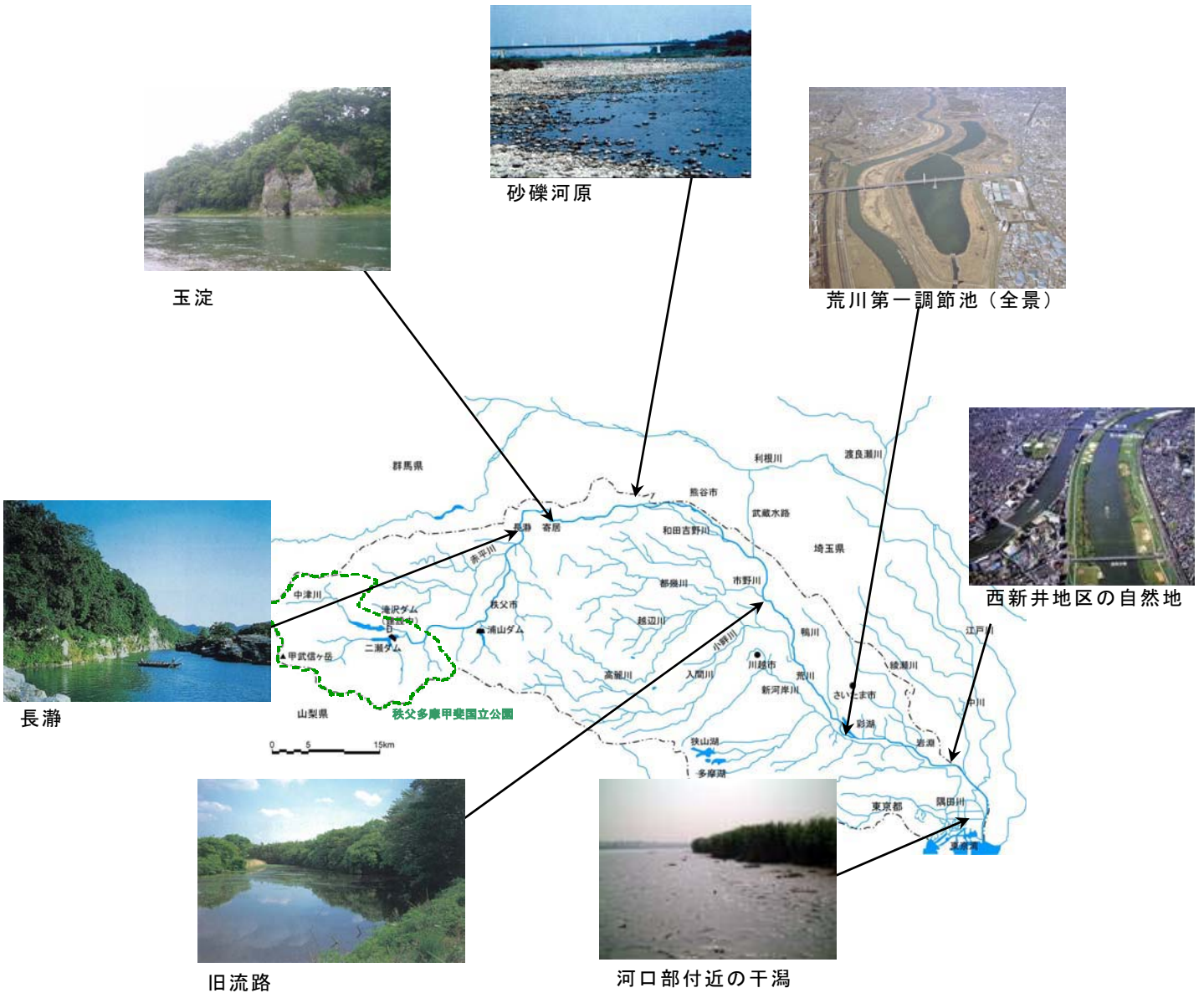


図 2-2 荒川水系の特徴的な河川景観



(2) 流域の史跡・名勝・天然記念物

荒川流域には、名勝・天然記念物・史跡が多数存在する。

荒川の流域には、古来より人が住み着き、文化遺産、史跡等が川を中心に点在している。また、秩父地方は、長瀨などの景勝地のほか、天然記念物である武甲山固有の植物群落をはじめ、流域の中でも独特な自然環境を有している。



写真 2-7 栢本関 【出典：埼玉県】

図 2-3 荒川に関連した国指定の主な史跡・名勝・天然記念物等位置図

表 2-2 荒川に関連した国指定の主な史跡・名勝・天然記念物等

NO	県	所在地	名称	種別	NO	県	所在地	名称	種別
1	埼玉県	川越市	河越館跡	史跡	22	東京都	文京区	高島秋帆墓	史跡
2		吉見町	吉見百穴	史跡	23			小石川後楽園	特別史跡・特別名勝
3		吉見町	吉見百穴ヒカリゴケ発生地	天然記念物	24			大塚先儒墓所	史跡
4		熊谷市	宮塚古墳	史跡	25			湯島聖堂	史跡
5		さいたま市	見沼通船堀	史跡	26			弥生二丁目遺跡	史跡
6			田島ヶ原サクラソウ自生地	特別天然記念物	27			六義園	特別名勝
7			与野の大力ヤ	天然記念物	28	北区		旧古河氏庭園	名勝
8		新座市	平林寺境内林	史跡	29			西ヶ原一里塚	史跡
9		日高市	高麗村石器時代住居跡	史跡	30			中里貝塚	史跡
10		富士見市	水子貝塚	史跡	31	中央区		旧浜離宮庭園	特別名勝・特別史跡
11		北本市	石戸蒲ザクラ	天然記念物	32	墨田区		向島百花園	名勝・史跡
12		東松山市	大谷瓦窯跡	史跡	33	千代田区		江戸城外堀跡	史跡
13		長瀨町	長瀨	名勝・天然記念物	34			江戸城跡	特別史跡
14			野上下郷石塔婆	史跡	35			江戸城跡のヒカリゴケ生育地	天然記念物
15		秩父市	栢本関跡	史跡	36			常盤橋門跡	史跡
16			武甲山石灰岩地特殊植物群落	天然記念物	37	練馬区		三宝寺池沼沢植物群落	天然記念物
17		寄居町	鉢形城跡	史跡	38			練馬白山神社の大ケヤキ	天然記念物
18	東京都	台東区	伊能忠敬墓	史跡	39	板橋区		志村一里塚	史跡
19			蒲生君平墓	史跡	40	新宿区		山鹿素行墓	史跡
20			高橋至時墓	史跡	41			林氏墓地	史跡
21			平賀源内墓	史跡	42	江東区		松平定信墓	史跡

### (3) イベント・観光

荒川流域には、荒川と生活をともにしてきた人々の伝統文化・祭りや、荒川の水面や高水敷を利用した各種イベントが数多く開催されている。

この他、荒川流域においては、熊谷桜堤や長瀬が「桜の名所 100 選」に、両神村（現在）の丸神の滝が「日本の滝 100 選」、荒川・押切の虫の声が「音風景 100 選」、熊谷市のムサシトミヨ生息地と嵐山町のオオムラサキの森が「ふるさといきもの郷 100 選」に選ばれている。

沿川の花火大会は、隅田川の花火大会、熊谷の花火大会等が有名である。



図 2-4 荒川流域の主なイベント・観光

【出典：埼玉県「写真集荒川」】

表 2-3 荒川流域の主なイベント・観光及び100選

	名称等	内容		名称等	内容
上流部	中津峡	紅葉の見所	中流部	花火大会	イベント(熊谷市・8月中旬)
	入川溪谷	紅葉の見所		鹿島古墳群と白鳥飛来地	荒川右岸江南町
	滝川溪谷	紅葉の見所		熊谷桜堤	さくらの名所100選(熊谷市)
	奥秩父	滝沢ダム、栃本関跡		元荒川の桜	桜の名所
	大滝	紅葉の見所三十槌の水柱		越生梅林	観光施設
	三峯山	三峯神社、紅葉		黒山三滝	紅葉の見所
	天上岩の溪流	観光施設		鎌北湖	観光施設
	十万峰溪谷	観光施設		武蔵丘陵森林公園	観光施設
	神怡館	観光施設		嵐山溪谷	観光施設
	橋立鍾乳洞	観光施設		巾着田	日高市高麗川沿い、花の見所
	羊山公園	シバザクラの見所		名栗溪谷	紅葉の見所
	お雛粥(ひながゆ)	伝統行事(小鹿野町・4月3日)		狭山茶処	茶の山地
	秩父夜祭	伝統行事(秩父市12月3日)		狭山湖	花の見所
	川瀬祭	伝統行事(秩父市・7月19日)		脚折(すねおり)の雨乞い	伝統行事(鶴ヶ島市・8月上旬)
	柳田の千垢離(せんごり)	伝統行事(秩父市・7月下旬)		石戸蒲桜	桜の見所(北本市)
	川施餓鬼(かわせがき)	伝統行事(秩父市・8月中旬)		平方のどろいんきょ	伝統行事(上尾市・7月下旬)
	雨の日の精霊送り	伝統行事(秩父市・6月16日)		小江戸川越の蔵づくりの街並み	史跡、観光施設
	正丸峠	紅葉の見所		丸山公園	ツツジの見所
	美の山公園	ヤマザクラの見所		秋ヶ瀬公園	桜の見所(志木市)
	長瀨	石畳、ライン下り紅葉・桜の見所		サクラソウ自生地	花の見所(志木市)
舟玉祭	伝統行事(長瀨町・8月15日)	彩湖	運動施設、グリーンパーク		
金尾つつじやま公園	花の見所	戸田公園	花火、ボート、レガッタ		
玉淀の水天宮祭	伝統行事(寄居町・8月上旬)	流し雛	伝統行事(台東区・3月3日)		
鉢形城公園	史跡、観光施設	荒川市民マラソン	イベント(板橋区・3月)		
中流部	コスモス街道	鴻巣市	下流部	隅田川花火大会	イベント(墨田区・7月下旬)
	吉見百穴	史跡、ヒカリゴケ自生地		上野恩賜公園	観光施設、サクラの名所100選
	年の瀬の人形流し	伝統行事(皆野町・12月31日)		浅草	観光施設

## 2.4 自然公園の指定状況

荒川流域における主な自然公園の指定状況は以下のとおりである。

上流域では秩父盆地を囲むように、秩父多摩甲斐国立公園、県立武甲自然公園、<sup>りょうがみ</sup>県立両神自然公園、<sup>くろやま</sup>県立長瀨玉淀自然公園がある。また、入間川水系の水源地の山地部も<sup>くろやま</sup>県立奥武蔵自然公園、<sup>くろやま</sup>県立黒山自然公園があり、ほぼ山地地域はすべて自然公園の指定を受けている。

中流域では、丘陵地に<sup>くろやま</sup>県立企比丘陵自然公園、武蔵丘陵森林公園及び都立・<sup>くろやま</sup>県立狭山自然公園があり、丘陵地に残された森林が自然公園の指定を受けている。



図 2-5 自然公園等位置図

【出典：東京都及び埼玉県の自然公園位置図】

表 2-4 自然公園等一覧

区分	公園名	公園面積 (ha)	公園の特色
国立公園	秩父多摩甲斐国立公園	34,411.0	山岳・溪谷
県立自然公園	県立奥武蔵自然公園	21,839.0	丘陵
	県立黒山自然公園	9,420.2	丘陵・森林
	県立長瀨玉淀自然公園	14,753.6	溪谷
	県立比企丘陵自然公園	4,638.0	丘陵
	県立上武自然公園	6,378.0	溪谷
	県立武甲自然公園	15,462.0	山岳・溪谷
	県立安行武南自然公園	1,159.0	植木畑
	県立両神自然公園	5,283.0	山岳・溪谷
	県立西秩父自然公園	9,430.5	山岳・溪谷
	県立狭山自然公園	1,807.8	湖沼・丘陵
都立狭山自然公園	775.0	湖沼・丘陵	